2011 年度

2012 年 3 月 24 日(土)　14：00～

北海道大学・人文社会科学総合教育研究棟（通称 W 棟）W408 室（W 棟は文学部棟に隣接した 6 階建ての棟です。文学部棟までのアクセスは下記 URL を参照）

http://www.let.hokudai.ac.jp/let-common/access.php

楊　安娜（北海道大学・院）

“VR 了的 N”構造における　“了”の生起条件について

結果補語をもつ動補構造(VR と記す)が連体修飾節になる場合、多くの場合“了”の生起が随意的である(ex. 打碎了的花瓶→打碎的花瓶)。しかし、“了”の生起が義務的な場合もある(ex. 买大了的鞋→*买大了的鞋)。先行研究では“V”が表す動作・行為から最も自然に予想される結果からはずれた状態“R”がおこったものである場合には、“了”の生起が義務的であるとされているが、それではうまく説明できないものがある。本発表は発話者の事態に対する認知を、知覚的—判断的というスケールから捉え直すことより、この問題を再検討することを試みる。

山田大輔（北海道大学・院）

上古漢語の語気詞“矣”の意味・機能について

上古漢語の語気詞“矣”の意味・機能に関する研究は、馬建忠(1898)以来数多く出されており、それらは内容によって、①「已然」という観点から説明する立場、②「動態」という観点から説明する立場、③「新情況」という観点から説明する立場、④「確定」という観点から説明する立場、の４つに大きく分けられる。しかしながら、“矣”の様々な用法を統一的に説明できる説はいまだ提出されていないように思われる。そこで本研究は、従来、用例の存在が指摘されるだけで、掘り下げた議論がほとんどなされてこなかった「条件文の後節末につく“矣”」や「未来を表す“將”とともに用いられる“矣”」、「命令文に用いられる“矣”」などの“矣”を検討し、“矣”の意味・機能についての仮説を提示することにする。

加部勇一郎（北海道大学・専門研究員）

音で遊ぶ人々について—『鏡花縁』と『七嬉』を中心に

清代嘉慶年間の音韻学者である李汝珍と許桂林は、それぞれじしんの学問的成果を織り込んだ小説（『鏡花縁』と『七嬉』）を残している。それらはいずれも、書き手の衒学趣味が現われた作品と見なされがちであるが、その営みはまた、高度に抽象的な音韻学を一般の人々に解説するような、教育的実践の試みとも

言い得るものなのである。本発表では、二人の音韻学者がどのように自作に音韻学的知識を織り込んだのかについて、小説および周辺の筆記の記述から読み解き、「空谷伝声」「双声畳韻」などのキーワードを軸にしながら、当時の言語遊戯の一側面について、文化史的な角度から述べる。

熊娟（北海道大学・JSPS 外国人特別研究员）

从《佛说盂兰盆经》说起

《佛说盂兰盆经》在《大正新修大藏经》中题名为西晋竺法护译，对于这一题署学界存有异议。通过考察“罪障”、“邪魔”、“自恣日”、“四道果”、“释然”、“年年”、“床敷”、“三公”、“为可尔不”这些语言现象的使用情况，再结合文献记载和经文内容这些旁证，得出结论：《佛说盂兰盆经》应该不是西晋竺法护译经，而是假借翻译佛经的形式编撰出来的疑伪经，其写作时代最早可能是东晋姚秦。在此基础上，对与该经密切相关的“盂兰盆”这个词语进行了考察。关于它的来源历代佛教学者和近现代以来的佛学辞书聚讼不已，本文认为“盂兰盆”一词并非是来自梵语的音译外来词，它根本就没有据以翻译的梵语原词存在，应该是一个地地道道的汉语词，可能是疑伪经《佛说盂兰盆经》的编撰者创造出来的。

問い合わせ先

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 7 丁目

北海道大学大学院文学研究科 松江崇研究室（支部事務局）

E-mail: zhongwenxi＊let.hokudai.ac.jp（＊を半角@に変えて入力してください）